

父親の子育てと職場／家庭のジェンダー規範

——父親へのインタビュー・データから——

大阪府立大学 巽真理子

1 目的

本報告の目的は、父親の子育てと職場／家庭におけるジェンダー規範の関連を考察することである。父親の子育てについて個人・家庭・職場すべてを同時に含んだ研究は少ない（石井クンツ 2013）。その中で多賀（2011）は、父親の子育てと仕事の両方に注目してその間の葛藤を明らかにし、職業領域が男性領域であるために父親がもつ稼ぎ手役割や仕事を通じた自己実現・社会的成功への志向を指摘した。また巽（2014）では、父親の子育てを公私領域と合わせて考察することによって、父親の子育ての関わりの程度には各領域内のジェンダー規範とメンバーからの承認が重要であることを明らかにした。したがって、父親の子育てを考察する際に公私領域である職場／家庭領域を合わせてみていくことは重要であり、各領域内のジェンダー規範が父親の子育てに影響していると考えられる。

2 方法

本報告では、末子が12歳以下の父親へのインタビュー・データのうち、父親の子育て役割の重要性が増すと予想される、妻が就業している、または就業を希望しているケースを取り上げる。分析時には（1）父親の働き方や妻の就業状況、（2）家庭における子育ての分担状況、（3）職場／家庭領域におけるジェンダー規範およびそれに対する父親の理解に注目する。

3 結果

分析の結果、父親が子育てのために仕事の調整をするかどうかについては、父親個人の意識だけでなく、職場領域のジェンダー規範の影響が大きいことがわかった。また、職場領域における「男性は稼ぎ手」というジェンダー規範は、妻の就業状況やジェンダー規範にも影響していることが示唆された。しかし父親は、自身の働き方に対する職場領域からの影響を感じながらも、子育ての分担が妻に多くなりがちな現状は「妻の意思を尊重している」結果であると考えていた。

4 結論

以上から、父親の子育ては直接・間接的に職場領域のジェンダー規範の影響も受けており、家庭領域に対する職場領域の影響が大きいことがわかった。また、父親が性別役割分業の現状を「妻の意思を尊重している」と考えている点は、家庭領域のキーパーソンである妻からの承認を重んじているといえるが（巽 2014）、一方で子育ての性別役割分業の問題を、職場領域のジェンダー規範に基づいた父親自身の働き方を自明視した上で、家庭領域内に閉じ込めているともいえるだろう。

したがって、子育てにおける性別役割分業は父親個人や夫婦間だけではなく、職場という公領域をも含んだ問題であり、今後は職場領域におけるジェンダー規範の重要性を改めて見直す必要がある。

文献

- 石井クンツ昌子, 2013, 『「育メン」現象の社会学——育児・子育て参加への希望を叶えるために——』 ミネルヴァ書房。
- 多賀太, 2011, 「育児するサラリーマン——育児できないつらさ、仕事ができないつらさ」, 多賀太編著, 『揺らぐサラリーマン生活——仕事と家庭のはざままで』 ミネルヴァ書房: 99-126。
- 巽真理子, 2014, 「父親の子育てによって公私領域がゆらぐ可能性: 父親の居場所と性別役割分業」 『人間社会学研究集録』9: 23-43。